

減ってるけれどまだ続いている エムボックス（サル痘）をおさらい akta / 感染症コミュニケーション円卓会議*

国境を越えて人と出会ったり、大きなイベントに参加したりできるようになってきました。2023年10月末には台北のプライドイベントも開催されます。

そんな中、あまりニュースにはなっていませんが、日本やアジアの国や地域を中心に、エムボックス（旧称：サル痘）の感染が続いています。

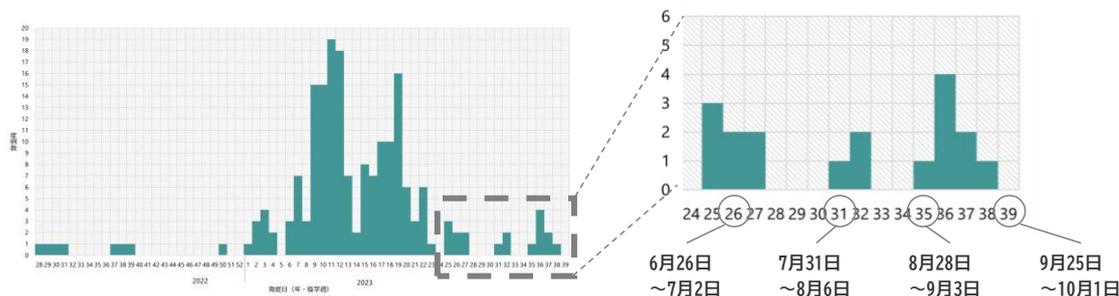
万一の際にあわてないように、今のうちに簡単におさらいしておきましょう。

日本国内で感染が続いている

日本の感染報告は2023年3月をピークに減っていますが、その後も途切れ途切れに続いています。

全国の感染状況は、「エムボックス（サル痘）について」（厚生労働省）で公開されています。

※ 1月の最初の月曜日を「第1週」として表記されています（「報告週対応表」で日付を確認できます）。

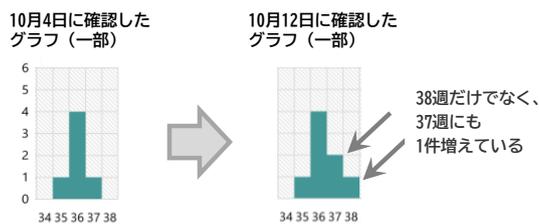


厚生労働省「国内の発生状況」を改変

感染報告の最新データは、実際より少ないかも（後から増えることも）

グラフで最近の数週間の感染者が少なく見えても、「減った」「終わった」と判断するには早いかもしれません。

厚生労働省のグラフは、「症状が出た週」で集計されています。症状が出てもすぐに受診するとは限らないため、直近の報告数は実際より少ない可能性があります。



厚生労働省「国内の発生状況」を改変

* 感染症コミュニケーション円卓会議は、コミュニティの代表、医療・研究機関、行政が、感染症についての情報発信などについて検討、実施する任意の団体です。

参加団体・機関：akta、ぶれいす東京、MASH 大阪、国立感染症研究所、国立国際医療研究センター、厚生労働省、東京都



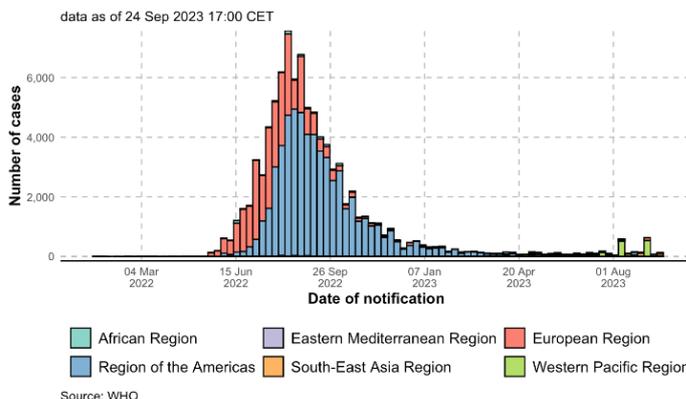
エムボックス（サル痘）について（厚生労働省）



報告週対応表（国立感染症研究所）

今のエムポックスの流行は、日本を含むアジア地域が中心

エムポックスの世界的な流行は欧米から始まりました。しかし、今(2023年9月24日時点)の流行の中心は、日本を含むアジア地域です。



2022-2023 Mpox (Monkeypox)
Outbreak: Global Trends
(WHO)

WHO が公開している世界の感染状況のグラフ(上記)で、2023年の8月(Aug)ごろから増えている黄緑色があらわしているのが、日本など東アジアの国や地域を含む“Western Pacific Region(太平洋の西側地域)”です。また、“South-East Asia Region(南東アジア地域)”のオレンジも増えてきています。

WHOのページは英語ですが、“2.1 Epidemic curves”のグラフ(上記と同じもの)で視覚的に流行状況を確認することができます。最新の情報を確認するようにしましょう。

HIVの検査と治療がオススメ

現在流行しているエムポックスのウイルスは、感染しても重症化することの少ないタイプです。ですが、HIVに感染して治療ができていない場合など、免疫が低下している方では、入院が必要な重い症状があらわれたり、命に危険が及んだりする可能性が高くなります。

エムポックスの重症化のリスクを高めないために

- ✓ まずは、HIVに感染していないか検査する
- ✓ HIVに感染している場合、できるだけ早くHIVの専門の医師に相談する
- ✓ 既にHIVの治療をしている場合、確実に続ける



「あんしん HIV 検査サーチ」
(HIV マップ)

ニーズにあった、あんしんな HIV 検査は「あんしん HIV 検査サーチ (HIV マップ)」で検索できます。

関連リンク

MPOX GUIDE BOOK



症状は？ 感染経路は？
相談先は？ コンドームで
防げる？ 一通りの情報が
まとまったハンドブック

ポスター



「お店やイベントで
mpox(サル痘)の感染
リスクを減らすために」

HIV マップ記事①



「エムポックス(サル痘)が
日本で感染拡大
～現状を知って
感染リスクを下げよう～」

HIV マップ記事②



「エムポックス(サル痘)に
感染したかも？と思ったら
まずはこちら。
症状・受診などのまとめ」